

# 令和5年度 事業報告書

社会福祉法人 相模翔優会

特別養護老人ホーム ル・リアンふかみ

短期入所（予防）生活介護 ル・リアンふかみ

<目 次>

社会福祉法人相模翔優会法人理念	2
法人スローガン	2
ル・リアンふかみ 施設運営方針	3
求められる職員像	3
はじめに	4
1 理事会・評議員会開催状況	5
2 特別養護老人ホーム	6
（1）利用者の状況とサービスの提供	6
（2）介護主任総括	8
（3）各ユニット報告	8
（4）短期入所生活介護	13
（5）利用者の健康状況	14
（6）サービスの質の向上	16
ア 相談部門	16
イ 機能訓練	18
ウ 食事栄養担当	19
エ 介護支援専門員	20
オ 口腔ケア指導	20
3 委員会報告	21
（1）安全衛生委員会	21
（2）感染症・褥瘡予防委員会	21
（3）人権擁護委員会	22
（4）総務委員会	24
ア 防災	24
イ 物品	25
（5）行事企画担当	25
ア 研修	26
イ ボランティア活動	30
ウ 外部機関との関わり	30
4 職員関係	30
（1）職種別配置構成	30
（2）資格取得構成	31
（3）講師派遣・実習	32

## 【社会福祉法人相模翔優会 法人理念】

相模の地で、笑顔で翔き、優しさをもって、

出会える場所を提供致します。

### 【法人スローガン】

「 優・尊・地・守 」

1. 優しさをもって接します。
2. 人権を尊重した生活を提供します。
3. 社会貢献を目指し、地域に求められるよう努めます。
4. 法令を遵守した法人運営に努めます。

## 【ル・リアンふかみ 施設運営方針】

### ル・リアンふかみの「絆」

- ・ 関わる全ての人との絆を深め、「想い」を大切にします。
- ・ 優しさを持ち、職員間の絆の輪を広げます。
- ・ 社会貢献により、地域との絆を築きます。
- ・ 関係機関との絆を構築します。

### 【求められる職員像】

#### 「思いやり・向上心・権利擁護」

- ・ 思いやりのある職員
- ・ 向上心を持ち、チームとして働ける職員
- ・ 人権を守り、権利擁護を理解できる職員

## はじめに

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となりましたが、依然として感染が各地で発生していることもあり、面会制限を続けております。ご家族やご利用者各位には、ご迷惑をおかけした1年となりました。令和6年も引き続きの対応となりますが、状況が好転した時期が参りましたら、コロナ前の面会制限の解除を含めた状況へ戻したいと考えております。

令和5年度の事業運営につきましては、昨年度の状況と体制が改善せず、入居稼働率及び人件費の不均等な体制による偏りがあり、残業等の発生により公平な人件費の分配が機能していなかったことに責任を痛感いたします。今年度は年度初頭から体制を改め、チェック機能を高めてまいります。処遇改善金等の加算を職員全員の配分や見直しだけでなく、職員の階層別に配慮してまいります。

事業費関係については、諸物価高騰が続いており、令和5年度は神奈川県及び大和市からの補助金助成をうけ、対応してまいりました。しかし、令和6年度は介護報酬改定により収入アップが見込まれますが、高騰分を補填するまでにはならず、令和5年度同様に経費の節減や見直しを図り、運営努力に努めてまいります。

介護全般につきましても事業計画の遂行ができていないなど、事業報告で反省点を各部署から詳細な報告を示します。今年度はこの反省の上に立ち、遂行させていきます。ご利用者のアンケートや面談時の要望を職員個々が進めていくことが求められます。令和5年度末には、神奈川県の補助金の交付を受け、施設内のネット環境の工事及び見守り機器と連動した記録システムなどの移行が可能となりました。このことにより職員の業務省力化による環境の改善と、ご利用者の安全を第一とした体制の構築の第一歩ができたと考えております。

令和5年度大いに反省すべき点は、ご利用者へのサービス提供が、個別性、集団性の対応に欠けていたことにあります。上記に記載した反省は各部署よりの詳細な報告といたしますが、管理者としての指導力に課題があったことは否めません。令和6年度の年頭から改善に向けた行動を組織的に実施し、利用者サービスの向上を第一に考えて進めてまいります。

令和6年3月に大規模修繕の一環として、科学的介護システムの導入を図り、職員の介護労働の軽減化と新たな人材確保に向けた取り組みを行います。また、能登半島地震の教訓から、災害体制の見直しを図りご利用者の安全確保に努めてまいります。令和6年度もご利用者及びご家族・行政関係者の方々の協力を得ながらよりよい介護サービスの提供を行ってまいります。

令和6年3月31日  
特別養護老人ホーム  
ル・リアンふかみ  
施設長 小泉 昇

# 1 理事会・評議員会報告

## (1) 理事会開催状況 理事 6 名 監事 2 名

回	開催年月日	出席者数	承認・決議事項
1	令和 5 年 5 月 31 日	8 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 号議案 令和 4 年度事業報告について</li> <li>・ 第 2 号議案 令和 4 年度決算報告について</li> <li>・ 第 3 号議案 監事監査報告及び財産目録について</li> <li>・ 第 4 号議案 評議員退任に伴う選任解任委員会委員への推薦について</li> <li>・ 第 5 号議案 次回、理事会・評議員会の開催について</li> <li>・ その他</li> <li>・ 報告事項 理事長執行理事の業務報告</li> <li>・ 報告事項 運営状況について</li> </ul>
2	令和 5 年 6 月 21 日	8 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 号議案 理事長の選任について</li> <li>・ 第 2 号議案 業務執行理事の選任について</li> <li>・ 第 3 号議案 横浜銀行借入金 ¥50,000,000.-更新について</li> <li>・ 第 4 号議案 次回、理事会の開催について</li> <li>・ 報告事項 運営状況について</li> </ul>
3	令和 5 年 11 月 22 日	8 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 号議案 第 1 次補正予算について</li> <li>・ 第 2 号議案 第三者委員の選任について</li> <li>・ 第 3 号議案 厨房機器の入替リースについて</li> <li>・ 第 4 号議案 次回理事会開催について</li> <li>・ 報告事項 理事長及び業務執行理事の業務報告</li> <li>・ 報告事項 運営状況について</li> <li>・ その他 後援会寄贈品について</li> </ul>
4	令和 6 年 2 月 14 日	8 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 号議案 令和 5 年度施設開設準備経費等支援事業費補助金交付に関わる立替金の融資について</li> <li>・ 第 2 号議案 次回、理事会開催について</li> <li>・ 報告事項 理事長及び業務執行理事の業務報告</li> <li>・ 報告事項 運営事項について</li> </ul>
5	令和 6 年 3 月 18 日	8 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 号議案 令和 6 年度 事業計画 (案) について</li> <li>・ 第 2 号議案 令和 6 年度 予算 (案) について</li> <li>・ 第 3 号議案 令和 6 年度 9 月更新予定借入金 ¥500,000,000.-について</li> <li>・ 第 4 号議案 次回、理事会・評議員会開催日程について</li> <li>・ 報告事項 理事長及び業務執行理事の業務報告</li> <li>・ 報告事項 運営状況について</li> </ul>

(2) 評議員会開催状況 評議員 7 名

回	開催年月日	出席者数	承認・決議事項
1	令和 5 年 6 月 21 日	7 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 号議案 令和 4 年度 事業報告について</li> <li>・ 第 2 号議案 令和 4 年度 決算報告について</li> <li>・ 第 3 号議案 監事監査報告及び財産目録について</li> <li>・ 第 4 号議案 理事の選任について</li> <li>・ 報告事項 横浜銀行借入金 ¥50,000,000.- の更新について</li> <li>・ 報告事項 運営状況について</li> </ul>

2 特別養護老人ホーム

(1) 利用者の状況とサービスの提供

ア 要介護度別

令和 6 年 3 月 31 日現在

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計 (人)
男性	0	0	6	4	7	17
女性	0	0	25	30	15	70
計	0	0	31	34	22	87

イ 要介護度別月末延人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 3	25	24	25	26	28	29	29	29	29	31	30	31
要介護 4	41	40	40	40	41	38	38	37	37	26	35	34
要介護 5	22	21	19	16	16	17	18	19	20	20	20	21
計	89	85	84	82	85	84	85	85	86	87	85	87

ウ 年齢別 ※平均年齢 85.2 歳 最高年齢 99 歳

令和 6 年 3 月 31 日現在

	～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳～	計 (人)
男性	0	1	2	0	7	6	1	17
女性	1	3	4	6	8	24	24	70
計	1	4	6	6	15	30	25	87

エ 入所前状況

令和 6 年 3 月 31 日現在

入居前状況等	男性	女性	計 (人)
在宅	9	46	55
グループホーム	2	2	4
小規模多機能型居宅介護	0	0	0
有料老人ホーム (住宅型・介護付)	3	10	13
サービス付き高齢者住宅	0	0	0
介護老人保健施設	2	10	12
医療機関	0	3	3
計	16	71	87

オ 要介護度別新規入所者数

	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	男性	1	0	0	2	0	1	1	0	0	1	0	0	6
	女性	1	0	1	0	3	0	0	0	2	1	1	0	9
要介護4	男性	0	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	5
	女性	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	5
要介護5	男性	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	5
	女性	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
合計		4	1	3	3	3	3	3	3	4	3	1	2	33

カ 入所者の認知症高齢者・障害高齢者日常生活自立度

【認知症高齢者日常生活自立度】

令和6年3月31日現在

ランク	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	IV	M
男性	0	0	1	9	6	0	2	1
女性	2	3	4	19	12	2	14	12
合計	2	3	5	28	18	2	16	13

【障害高齢者日常生活自立度】

令和6年3月31日現在

ランク	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2
男性	0	0	0	1	4	4	5	2	1
女性	0	0	0	8	16	15	20	3	8
合計	0	0	0	9	20	19	25	5	9

キ 退所理由

	逝去（看取り）	逝去（入院先）	長期入院	他施設入居	その他（急逝）	計
男性	3	4	3	1	0	10
女性	11	6	4	1	0	22
合計	14	10	7	2	0	32

ク 待機者状況

令和6年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男性	0	0	14	7	8	29
女性	0	1	18	16	7	42
合計	0	1	32	23	15	71

ケ 面会状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
面会数	49	51	45	44	40	56	51	45	43	103	95	86	708

年間合計 708 人（月平均 59.0 人）



## (2) 介護主任 総括

新型コロナウイルス感染症対策も第5類となり、ご家族との面会方法の検討などをしながら、感染対応に我慢をさせられる状況におかれましては。看取りのご利用者も昨年の対応とは変わり、居室での面会をすすめるなど、ご希望にあわせて、最期の時間をご家族と共に過ごすことができました。今後も感染症が蔓延することないよう職員の自己管理の徹底と感染症対策の見直しを行い、今後に備えた対応の取り組みをしております。日頃の生活においても、レクリエーションや外出などの企画も制限があった中での活動でしたが、思うように活動することが出来ず、ご利用者の皆様には、我慢を強いられる一年になってしまいました。

採用状況におきましては、ハローワークやホームページ、求人サイトの活用、職員からの紹介により新入職者を迎えることができました。紹介会社からの職員は、最小限にとどめることができましたが、これまでの職員募集活動が実を結んできたものと考えます。今後も安定した施設運営を行うべく、定期的な採用に力を入れて参ります。職員が定着し、紹介会社等に頼ることないよう安定した施設運営の継続を目指していきたく強く考えております。

また、職員定着・安定のために教育プログラムの構築を目指し、教育・研修チームを設置しましたが、指導方法など指針を示すことが出来ず、稼働には至っておりません。指導者・リーダー・中堅職員の育成の時間に重点を置き、教育・研修にあたる職員を各種主要研修に参加し、外部研修への参加を行い、得意分野を作れるよう派遣しましたが、それを職員へ内部研修にて伝達に至らず、施設への取り組みが進んでおりません。上記で示した通り、紹介会社を通さず、雇用が進んでいる現状を踏まえて、教育・研修プログラムの構築は急務と感じております。当施設が、初めての職場となっている職員も増えてきているため、社会人としてのルールをはじめ、教育体制と精神的な支援を継続的に行ってまいります。

令和6年3月に介護ロボット、ICT化の導入の一環として、ナースコール、職員の介護労働の軽減化、業務の効率化をはかります。ご利用者の個々の対応を迅速に行い、個別性を重視した介護をすすめていくことで、職員の安定した定着、新たな人材育成に力を入れ、当法人へ貢献していただけるよう努めてまいります。

## (3) 各ユニット報告

### <1 階青ユニット>

令和5年度目標	ご利用者の個別性を理解し、ご利用者同士の交流の場を設け、施設内での楽しみを見つけていただける取り組みを考え、実施致します。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 共同生活室内に季節感を感じられる飾りつけを行い、クリスマスや夏祭り等実施することが出来ました。</li><li>・ ご利用者の趣味や嗜好を把握し職員間で情報共有をする事により、ご利用者の希望に沿ったケアを実施できました。</li></ul>
反省点	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ご利用者同士の交流の場を設ける事があまり出来ませんでした。</li><li>・ 職員間で整容、言葉遣い等、ご利用者への対応に差が出てしまいケアを統一できませんでした。</li><li>・ レクリエーションの実施が出来ない月がでてしまいました。</li></ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全職員が整容、接遇をしっかりと行いご利用者により安心、安楽にお過ごししていただけるようにして参ります。</li><li>・ レクリエーションの実施担当と予定を決め、毎月レクリエーションを実施し</li></ul>

	<p>て参ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者、ご家族の要望を聞き取り、個別ケアの充実に繋げてまいります。</li> <li>・ご利用者の状態変化が見られた場合は速やかに多職種カンファレンスの実施を行い課題解決に努めてまいります。</li> <li>・申し送りの精度を高めケアの統一を進めてまいります。</li> </ul>
行事	お誕生日会・秋祭り・クリスマス会・節分・お花見

<1 階緑ユニット>

令和5年度目標	ご利用者お一人お一人の声を聴き、生活支援シートやご利用者の心身状態に合わせたケアに努めます。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の状態変化に応じた対応がしっかりと出来ました。</li> <li>・申し送りシートを使用し利用者情報の共有に努める事が出来ました。</li> </ul>
反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の声を聴き、ニーズの把握に努めるという点で至らないところがありました。また、生活支援シートの活用がうまく出来ませんでした。</li> <li>・居室環境の整備等、居室担当業務に差が生じてしまいました。</li> <li>・申し送りで伝達漏れが発生する事がありその為、全職員間でケアの統一化が出来ず、介助や整容、居室環境の整備に課題が見られました。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が整容、接遇をしっかりと行いご利用者により安心、安楽にお過ごししていただけるようにして参ります。</li> <li>・レクリエーションの実施担当と予定を決め、毎月レクリエーションを実施して参ります。</li> <li>・ご利用者、ご家族の要望を聞き取り、個別ケアの充実に繋げてまいります。</li> <li>・ご利用者の状態変化が見られた場合は速やかに多職種カンファレンスの実施を行い課題解決に努めてまいります。</li> <li>・申し送りの精度を高めケアの統一を進めてまいります。</li> </ul>
行事	お誕生日会・秋祭り・クリスマス会・節分・お花見

<1 階茜ユニット>

令和5年度目標	ご利用者が安心して生活できるよう、ケアの統一化、新入職員含め、介護職員の知識・技術向上を図ります。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の向上のため職員研修には積極的に参加できました。</li> <li>・ご利用者の状態変化に応じた排泄方法の変更や、食事介助、移乗方法等の変更などその都度柔軟に対応する事が出来ました。</li> </ul>
反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の申し送りで伝達漏れが発生する事がありその為、全職員間でケアの統一化が出来ず、介助や整容、居室環境の整備に課題が見られました。</li> <li>・カンファレンスの開催が遅れてしまい多職種連携に支障をきたす事がありました。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が整容、接遇をしっかりと行いご利用者により安心、安楽にお過ごししていただけるようにして参ります。</li> <li>・レクリエーションの実施担当と予定を決め、毎月レクリエーションを実施し</li> </ul>

	<p>て参ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者、ご家族の要望を聞き取り、個別ケアの充実に繋げてまいります。</li> <li>・ ご利用者の状態変化が見られた場合は速やかに多職種カンファレンスの実施を行い課題解決に努めてまいります。</li> <li>・ 申し送りの精度を高めケアの統一を進めてまいります。</li> </ul>
行事	お誕生日会・秋祭り・クリスマス会・節分・お花見

<2 階青ユニット>

令和5年度目標	ご利用者の思いや考えを尊重し、穏やかに過ごせるユニットを目指します。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各居室担当者並びに当日の各時間帯勤務者において、各ご利用者の動静や様子を確認する事で、その方々に応じたケアの実践に取り組む事ができました。一例として、多職種連携のもと、ご利用者の状態変化に伴う看取りカンファレンスの開催へと繋げることが出来ました。</li> <li>・ 居室内の環境整備やご利用者の整容実施など各職員において意識して取り組むことが出来ました。</li> </ul>
反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居室内の環境整備やご利用者の整容並びに車いすの整備について、各職員において実施を心掛けるも、実際は一部の職員による実施に留まり、全員で取り組む事が出来ませんでした。</li> <li>・ ご利用者の身体状況の把握やユニット内における申し送りの充実に努めるも、各時間帯において、ご利用者とのコミュニケーションが十分行えず、その事よりご利用者と職員間に齟齬が生じ、ご利用者本人をはじめとした方々へご心配をおかけしました。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者、ご家族の気持ちや意向の把握に努めると共に、日々のコミュニケーションを通じて相互の信頼関係の向上に努めます。</li> <li>・ ご利用者個々に応じた整容並びに本人様の周囲の環境整備の充実に励むと共にお一人お一人に寄り添った個別対応にも努めます。</li> </ul>
行事	お誕生日会・秋祭り・クリスマス会・節分・お花見

<2 階紫ユニット>

令和5年度目標	ご利用者・ご家族の意向を伺い、安心した生活を送れるユニット作りを行います。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者の体調やADLの変化が見られた際には、各職員が情報収集及び情報発信を行い、多職種とのカンファレンスを通じて、ご利用者の状態に応じた対応を行う事が出来ました。</li> <li>・ ご利用者並びにご家族の意向を汲み取り、ご利用者の個別ケアへの反映及び実行することが出来ました。</li> </ul>
反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面会時など、フロア職員がご家族と対面する場において、ご家族に対してご利用者の生活状況や体調の変化などの情報発信が不十分でした。</li> <li>・ ご利用者対応やコミュニケーションの取り方、言葉使いに差が生じてしまっており、一部ご利用者から職員に対して不満の声が聞かれてしまいました。</li> </ul>

次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者、ご家族の気持ちや意向の把握に努めると共に、日々のコミュニケーションを通じて相互の信頼関係の向上に努めます。</li> <li>・ ご利用者個々に応じた整容並びに本人様の周囲の環境整備の充実に励むと共にお一人お一人に寄り添った個別対応にも努めます。</li> </ul>
行事	お誕生日会・秋祭り・クリスマス会・節分・お花見

<2 階緑ユニット>

令和5年度目標	ご利用者とのコミュニケーションを深める機会をこれまで以上に設けるように努め、多職種との連携を強める事で多くのご希望に添えるように努めていく事を継続していきます。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月のレクリエーション活動に加えて、施設の庭園で外気浴などを行い、それぞれのご利用者との関わりを深める場を設けました。これにより、より一層の関係性を築くことができました。</li> <li>・ ご利用者の状況変化に合わせて、情報の共有と発信、移乗方法や排泄時間の見直しなど、職員間で協力し効果的に取り組むことができました。</li> </ul>
反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多職種との連携において、カンファレンスを通じての情報共有が不定期であった為、業務における改善点の特定と対応に遅れが生じるなど適切に行えておらず不十分でした。</li> <li>・ 髪型、爪の手入れなど整容が適切に行われていなかったことが課題となり、個人的なケアに十分な注意を払うことができませんでした。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設内のレクリエーション活動に加え、外出イベントの企画を増やし、ご利用者の声を反映したケアの充実に努めます。</li> <li>・ カンファレンスを定期的かつ効果的に行うこと心がけ、業務の質向上に努めます。</li> <li>・ ご利用者一人一人の身だしなみを常に整えることの重要性を改めて認識し適切に取り組みます。</li> </ul>
行事	お誕生日会・秋祭り・クリスマス会・節分・お花見

<2 階茜ユニット>

令和5年度目標	ご利用者の声がこれまで以上に暮らしに反映されるよう、多職種の協力のもとコミュニケーションの場を数多く設け、ご利用者・ご家族に寄り添っていく事を継続致します。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者が主体となって様々なレクリエーションを企画し、毎月計画的に実施することができました。この活動を通じて、ご利用者とのコミュニケーションをより一層深めることができました。</li> <li>・ ご利用者の状態変化に応じた対応を職員間で共有し、適切な介助方法の選択、調整を行いました。これにより、各利用者に合わせた最適なサポートを提供することができました。</li> </ul>
反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整容、身だしなみに関する課題が頻繁に指摘されており、ユニット全体でこれらに十分な注意を払い、適切に対応することができませんでした。</li> </ul>

次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外出を含むレクリエーションの企画とご利用者の声を反映したアクティビティの実施を継続し行います。</li> <li>・ 整容と身だしなみに関するケアの質を評価する為、職員間でのフィードバックを積極的に受け入れて継続的な改善を行っていきます。</li> </ul>
行事	お誕生日会・秋祭り・クリスマス会・節分・お花見

<3 階青ユニット>

令和5年度目標	ご利用者のご家族、職員ともに笑顔あふれるユニットを目指します。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々のコミュニケーションを通じてご利用者の希望に添ったレクリエーションの開催し、ご利用者に喜んで頂く事が出来ました。</li> <li>・ 居室担当が中心となり、ご利用者が快適に過ごせるような居室の環境整備を実施する事が出来ました。</li> </ul>
反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細かなカンファレンスの開催が行なえておらず、個別ケアに生かす事が出来ませんでした。</li> <li>・ 爪切り等の整容の実施が職員により差があり、ケアの統一が出来ていませんでした。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カンファレンスを適宜行ない、日頃の業務へ反映させて、個別ケアに活かしご利用者が快適に過ごせるように努めます。</li> <li>・ 身だしなみや衣類の管理、整容への気配りに意識を高めると共に生活環境の整備、向上に努めます。</li> </ul>
行事	お誕生日会・クリスマス会・節分・お花見

<3 階紫ユニット>

令和5年度目標	ご利用者の心に寄り添い、ご利用者の立場に立ったケアに努めます。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護記録の充実を行ない、ご利用者の身体状況の変化に気づき対応する事が出来ました。</li> <li>・ 日常の会話からご利用者の希望や思いを汲み取り、個々に合った生活を送れるような対応を行なう事が出来ました。</li> </ul>
反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的な研修への参加が行なえておらず、知識や技術の向上が出来ませんでした。</li> <li>・ 定期的なフロア会議が出来ておらず、情報共有が不十分であり統一されたケアの提供が出来ていないところがありました。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フロア会議を定期的に行い、情報共有を行い統一したケアの提供に努めます。</li> <li>・ 内部、外部に研修へ積極的に参加して質の高い介護を提供できるように努めます。</li> </ul>
行事	お誕生日会・クリスマス会・節分・お花見

#### (4) 短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護）

<3 階緑・茜ユニット>

令和5年度目標	利用者が、快適で心地よく安心して過ごせ適切な介護サービスを提供し生活が支障なく継続できるように支援します。
取り組み評価	利用者情報のお知らせは、同じような内容でなく安心できるような内容に実施できています。
反省点	退所時の忘れ物が、気を付けていたが毎月何件か出してしまいました。
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急利用者、新規利用者の受け入れを多職種と協議し連携を図り速やかに受け入れ態勢を出来るように努めます。</li> <li>・ 退所時の忘れ物を出さないように職員間で意識し努めます。</li> </ul>
行事	お誕生日会・クリスマス会・節分・お花見

#### 年間延利用日数（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	男性	0	2	5	0	0	0	3	3	4	5	8	0	30
	女性	35	53	34	40	50	56	62	58	36	70	62	48	604
要介護2	男性	28	25	32	53	36	38	28	25	23	32	34	33	387
	女性	69	57	47	62	40	30	21	12	31	29	28	48	474
要介護3	男性	23	31	91	41	16	38	46	29	65	46	53	48	527
	女性	130	120	128	131	101	84	107	131	130	124	77	41	1,304
要介護4	男性	20	12	30	25	10	27	17	17	6	8	4	9	185
	女性	67	56	72	48	52	58	74	64	56	86	87	103	823
要介護5	男性	25	25	21	35	54	43	23	31	20	20	20	22	339
	女性	104	133	138	134	167	164	182	164	133	114	101	96	1,630
小計	男性	96	95	179	154	116	146	117	105	118	111	119	112	1,528
	女性	405	419	419	415	410	392	446	429	386	423	355	343	4,842
合計		501	514	598	569	526	538	563	534	486	534	474	455	6,292

#### 新規ご利用者数（短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数		2	8	5	6	5	7	5	3	4	4	5	2	56

## (5) 利用者の健康状況

### 月別入院者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	0	2	2	0	1	1	1	0	0	2	1	1	11
女性	4	3	6	2	3	4	2	2	0	1	0	1	28
計	4	5	8	2	4	5	3	2	0	3	1	2	39

### 入院状況

No.	性別	入院月日	症状・病名	入院日数	再入所日	備考
1	女	4月3日	心不全	26日	4月28日	
2	女	4月14日	肺炎	13日		入院中ご逝去
3	女	4月19日	大腸癌			入院中ご退去
4	女	4月24日	抜歯のため	6日	4月29日	
5	女	5月4日	脳梗塞			入院中ご逝去
6	男	5月12日	誤嚥性肺炎			入院中ご退去
7	女	5月15日	下血	19日	6月2日	
8	女	5月15日	乳癌・腹水貯留	2日	5月16日	
9	男	5月15日	右大腿骨頸部骨折・肩脱臼	23日	6月6日	
10	女	6月12日	左大腿骨転子部骨折			入院中ご退去
11	女	6月19日	誤嚥性肺炎・心不全	37日	7月25日	
12	女	6月19日	下血	8日	6月26日	
13	男	6月22日	心不全			入院中ご退去
14	男	6月23日	急性心不全			入院中ご逝去
15	女	6月24日	脱水			入院中ご逝去
16	女	6月26日	ペースメーカー交換	7日	7月2日	
17	女	6月28日	食欲不振	13日	7月10日	
18	女	7月8日	食欲不振	52日	8月28日	
19	女	7月20日	脱水・低ナトリウム血症			入院中ご逝去
20	女	8月3日	てんかん発作			入院中ご退去
21	女	8月15日	心不全			入院中ご逝去
22	女	8月17日	気管支炎	27日	9月13日	
23	男	8月20日	誤嚥性肺炎			入院中ご退去
24	女	9月1日	嚥下障害・食欲不振			入院中ご退去
25	男	9月1日	肺炎			入院中ご退去
26	女	9月8日	右腎臓癌	26日	10月3日	
27	女	9月23日	左大腿骨遠位端骨折	18日	10月10日	
28	女	9月27日	完全房室ブロック	8日	10月4日	
29	女	10月13日	脱水・電解質異常	29日	11月10日	
30	男	10月22日	誤嚥性肺炎	15日	11月5日	

31	女	10月27日	肺炎			入院中ご逝去
32	女	11月22日	右大腿骨頸部骨折	18日	12月9日	
33	女	11月22日	脱水・上室性頻拍			入院中ご退去
34	男	1月6日	肺炎	6日	1月11日	
35	男	1月12日	前頭側頭型認知症	61日	3月13日	
36	女	1月23日	誤嚥性肺炎			入院中ご逝去
37	男	2月3日	意識消失			入院中ご逝去
38	女	3月12日	慢性心不全	21日	4月1日	
39	男	3月30日	誤嚥性肺炎			入院中ご逝去

## 疾患別

No.	疾患系統	症状・病名	男性	女性	計(人)
1	悪性腫瘍	乳癌・大腸癌・前立腺癌・胃癌・肺癌・子宮癌・白血病・膀胱内腫瘍・大腿外側有棘細胞癌	4	5	9
2	精神・脳神経系	精神疾患	2	16	18
		認知症	8	38	46
		パーキンソン病	2	5	7
		もやもや病	0	1	1
3	消化器系	便秘	13	64	77
		胆のう・胆石	0	3	3
		膵胆管粘液腫瘍	1	0	1
4	腎臓系	腎不全	3	2	5
		尿路感染	1	5	6
5	心臓・血管系	心疾患・不整脈	4	17	22
		高血圧	10	34	44
		脳出血・脳梗塞	6	19	25
		腹部大動脈瘤	1	0	1
6	血液系	貧血	1	7	8
7	自己免疫系	関節リウマチ	0	2	2
8	骨・関節系	骨粗鬆症	2	10	12
		大腿骨骨折	1	22	23
		腰椎圧迫骨折	1	11	12
		上肢骨骨折	2	3	5
9	内分泌系	糖尿病	3	11	14
		高脂血症	2	9	11
10	感覚系	白内障	2	12	14



		緑内障	1	9	10
		皮膚疾患	0	4	4
11	呼吸器系	肺 MAC 症	0	1	1
		肺炎	0	3	3
		誤嚥性肺炎	0	4	4
12	泌尿器系	前立腺肥大	4	0	4
13	婦人科系	子宮筋腫	0	3	3

## (6) サービスの質の向上

### ア 相談担当

令和5年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近隣の施設での新型コロナウイルス感染症の発生状況を細かく情報収集し、介護及び看護等と連携し、施設内での発生予防に努めます。また、新型コロナウイルス感染症の発生による入院や利用キャンセル等の不測の事態が起こる可能性を見据え、即時対応を行います。</li> <li>・ 安定した事業運営のため、適切な収益確保や入退所の効率化に努めます。</li> <li>・ 相談員間で入居待機者の把握を行い、空床期間を短縮します。また、随時面談を実施するとともに、短期入所の利用をご提案します。</li> <li>・ 入居及び短期入所の目標稼働率を通年97%とします。</li> <li>・ 生活相談員に必要なソーシャルワークを学ぶため研修参加や資格取得を目指し、相談専門職としての質を高めます。</li> <li>・ 外部研修や勉強会等に積極的に参加し相談専門職のスキル向上に努めます。</li> <li>・ 入居申込者確保のため、高齢者施設や医療機関等との関係を深めます。</li> <li>・ 毎月事務所会議を実施し、売上や入居進捗状況確認等を確認致します。</li> </ul>
取り組み評価	<p><b>【入居・短期入所共通】</b></p> <p>今年度における入居及び短期入所の平均稼働率は85.9%となり、目標値の97%を大幅に下回る結果となりました。サービス別年間稼働率は、入居 85.4%、短期入所 86.3%となりました。</p> <p><b>【入居】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入院 39 名（延べ 1,039 日）で、うち 37 名が内科的疾患による入院となり、入院者全体の 94.8%を占める結果となりました。骨折等の外的要因の入院は 2 件となり、前年度と比較し 1 件増加となりました。</li> <li>・ 32 名退居（看取り 14 名、入院先逝去 10 名、長期療養 7 名、他施設入所 2 名）、33 名入居されています。特に入院後に逝去される方や長期療養を余儀なくされるケースが 53.1%で半数以上を占める結果となりました。</li> <li>・ 短期入所ご利用者のご家族や担当ケアマネジャー等からの入居に関する相談が多く寄せられ、ショートステイからの入居移行する事で、稼働率確保はもとより、スムーズに入居移行する事ができました。</li> </ul> <p><b>【短期入所】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度年間稼働率は 86.3%となりました。内訳として上半期（4～9 月）88.7%、下半期（10～令和 6 年 3 月）83.9%で推移しました。</li> <li>・ 新規ご利用者受け入れは 56 名で月平均 4.6 名お受け入れしました。基本毎日</li> </ul>

	<p>相談員が出勤していることから、新規利用相談及び緊急利用相談について対応できるよう努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内外問わず、顔が見える関係性が構築できている居宅介護支援事業所にはこまめに連絡及び訪問を行い、新規利用相談等をして頂ける場を積極的に設ける事ができました。</li> <li>・ ご利用後は、担当ケアマネジャーへ連絡し、細かい生活状況や利用時のご様子をお伝えする事で、単発利用で終わらせるのではなく、次回利用に繋げるための情報伝達を行いました。</li> </ul>
<p>反省点と要因</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談員間の連携や情報共有等が不足しており、効率的な入居に繋げる事ができませんでした。退所～入居に至る期間が1カ月以上時間を要す方も多くおられました。その為、稼働率及び収入が不安定な状況に至りました。</li> <li>・ 短期入所のユニットにて令和6年2月25日～3月31日の期間に掛けて、新型コロナウイルス感染症が流行し、職員及びご利用者の感染がありました。事前に予約を頂いていたご利用者の利用キャンセルが相次ぎ、新規ご利用者の受け入れも困難になり、令和5年度末は大幅な稼働率低下に至りました。入居者が生活するユニットへの空床利用としての受け入れをできる限り行いました。</li> </ul>
<p>次年度課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安定した事業運営のため、適切な収益確保や入退所の効率化に努めます。</li> <li>・ 相談員間で入居待機者の把握を行い、空床期間を短縮します。また、随時面談を実施するとともに、短期入所の利用をご提案します。</li> <li>・ 入居及び短期入所の目標稼働率を通年97%とします。</li> <li>・ 生活相談員に必要な相談力向上やソーシャルワークを学ぶため研修参加や資格取得を目指し、相談専門職としての質を高めます。</li> <li>・ 神奈川県や神奈川県高齢者施設協議会、かながわ福祉サービス振興会等が主催する外部研修や地域の勉強会等に積極的に参加し相談専門職のスキル向上に努めます。</li> <li>・ 入居申込者確保のため、高齢者施設や医療機関等との関係を深めます。</li> <li>・ 毎月事務所会議を実施し、売上や入居進捗状況確認・多職種連携を行います。</li> <li>・ 入居待機者リストの定期的な見直しを行います。</li> </ul>
<p>次年度の取り組み</p>	<p><b>【入居・短期入所共通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護及び看護と協力し、小さな体調変化に迅速に対応し、体調不良の重症化を未然に防ぎます。長期入院や退所による空床の減少に努めます。</li> <li>・ 毎日相談員間の打ち合わせにより、連携確保・情報共有に努めます。</li> </ul> <p><b>【入居】</b></p> <p>退居から入居までを遅滞することなく、入居希望者の対応を円滑に努めます。</p> <p>①～④のサイクルで活動します。</p> <p>① 入居希望者の状況収集・情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入居申込書を基に、申込者や担当ケアマネジャー、医療相談員等に連絡し、申込書には記載されていない細かな情報収集を行います。申し込みから3カ月以上経過した方については入居意思を確認します。既に他施設に入居して</li> </ul>

	<p>いる方は速やかに待機者リストを整理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報収集した内容を共有し、常時 30 名を候補者として挙げます。</li> </ul> <p>② 面談</p> <p>優先順位の高い方や受け入れ可能である方については、相談員間で随時面談に伺います。</p> <p>③ 入退所判定会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面談結果を基に、各専門職との情報共有及び受け入れを確認します。候補者については原則受け入れ決定の場とします。</li> <li>・ 現入居者で体調が不安定な方（看取り契約済みの方も含む）や長期医療機関入院を避けられない方がいる状況であっても、空床期間削減のために、判定会后、速やかに健康診断打診をします。</li> </ul> <p>④ 入居日相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要書類が整い次第、入居日を相談します。</li> <li>・ 健康診断書や診療情報提供書等は概ね 3 ヶ月有効とし、急な退所にもスムーズにご案内します。</li> </ul>
	<p><b>【短期入所】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご自宅での生活状況を適切にアセスメントし、短期入所生活介護との生活の連動性の理解に努めます。</li> <li>・ 各居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、医療機関と密に連絡等行い関係構築に努めます。</li> <li>・ 緊急利用相談があった時は、入院等で空室となっている居室を有効活用し受け入れを行います。</li> <li>・ 空き状況を電話や FAX 等でお知らせし、新規ご利用者獲得に努めます。</li> <li>・ 短期入所のご利用者はもちろんのこと、そのご家族の状況、生活上の困り事を把握致します。また、介護負担軽減のご要望があれば、施設入居案内等をご家族や担当ケアマネジャーに提案します。</li> </ul>

## イ 機能訓練

令和 5 年度目標	ご利用者の身体機能を把握し、個人の生活に沿い個別機能訓練プログラムの立案・実施をする事で、日常生活動作の維持及び低下を最小限に留められるように努めます。
取り組み評価	<p><b>【ご利用者】</b></p> <p>個別機能訓練計画書の作成・見直し・評価・日常生活動作を意識した機能訓練の実施・環境整備（福祉用具選定・居室内環境整備等）を行う事で、ご利用者の身体機能の維持・改善ができました。</p> <p><b>【職員】</b></p> <p>介護職員や看護師・その他多職種との連携を図り、ご利用者の情報や日常生活動作等の身体能力を共有する事で、体調の変化時に対応をする事ができ、必要に応じて福祉用具の選定の見直し・職員への提言等を行う事ができました。</p>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体状態の改善が観られるも結果、日常生活動作に反映する事が出来ない点</li> </ul>

	<p>もありました。今後も機能訓練を行い身体能力の維持・改善に取り組むと共に介護職員等との更なる連携を図り、機能訓練で行った成果を日常生活動作に反映させ、ご利用者・ご家族に喜んで頂けるように行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関節拘縮における取組について情報伝達方法に問題と共に課題が有りました。今後においては書面等を作成する等、情報伝達方法の工夫・改善を行い統一化した情報共有が行う事が出来るように取り組みます。</li> </ul>
次年度課題	<p><b>【LIFE（科学的介護情報システム）の導入・活用】</b></p> <p>計画等の情報を厚生労働省に提出(LIFE の活用)し、フィードバックを受けてご利用者の状態に応じた個別機能訓練計画の作成、計画に基づく個別機能訓練の実施、評価、評価結果を踏まえた計画の見直しや改善の一連のサイクルによりサービスの質の管理を行い、日常生活動作の維持に努めます。</p>
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体能力の把握・評価を行うと共に、ご利用者・ご家族のニーズを把握し反映できるように取り組みます。</li> <li>・ 介護職員と更なる連携を図り、ご利用者の生活の質の向上や喜びを提供できるように努めます。</li> <li>・ 福祉用具や生活環境において快適に過ごして頂きながら、日常生活動作を維持・改善して頂ける様な取り組みを行います。</li> </ul>

## ウ 食事・栄養担当

令和5年度目標	<p>食べることを通して、ご利用者様の生活の質の向上に貢献します。</p>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給食会議では施設職員と厨房委託業者職員が参加し、活発な意見交換が行われました。</li> <li>・ 医務との経口維持加算経口摂取支援及び歯科医師と多職種による経口摂取支援は月1回実施をしています。</li> <li>・ 令和5年9月13日、令和6年3月6日に昭和大学歯学部弘中教授による摂食嚥下に関する回診及び講演会を実施しました。ご利用者様の食事形態や支援方法等のアドバイスを頂きました。今後活かしてまいります。</li> <li>・ 2か月に1度セレクト食を実施しており、ご利用者に選ぶ楽しみを感じて頂く事ができました。</li> <li>・ 行事食も予定通りに実施しました。</li> </ul>
反省点と要因	<p>報告・連絡・相談がスムーズでない事がありました。今後も各部署との連携に留意します。</p>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多職種との連携をさらに留意し、ご利用者のサービス安定、安心して生活していただけるように努めます。</li> <li>・ LIFE（科学的介護情報システム）の導入・活用。ご利用者様の栄養状態の維持及び改善を図り、各々の状態に応じた栄養管理（スクリーニング・アセスメント・モニタリング）を定期的に行います。</li> </ul>
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月、季節に合わせた行事食の提案・提供等工夫し、認知度を高めます。</li> <li>・ 行事食・セレクトメニュー等、ご利用者様が楽しみに感じていただける食事提供について、給食会議等の場を通して検討してまいります。</li> </ul>

食事の状況

令和6年3月31日現在

主食		副食		療養食	
米飯	20	常食	16	減塩食	7
軟飯	14	一口大	20	貧血食	4
粥	42	刻み	23	脂質異常食	
ミキサー粥	7	極刻み	17	エネルギー・コントロール食	
パン	33	ミキサー	7	腎臓食	
パン粥	39				
パン粥ミキサー	7				
計	83	計	83	計	11
経口維持加算 I 51人					

エ 介護支援専門員

令和5年度目標	現在のご利用者の心身状態に合わせた支援内容が盛り込まれた施設サービス計画書の作成を致します。
取り組み評価	新規ご利用者の施設サービス計画書の期間設定を短くして(2ヶ月~3ヶ月)速やかに修正ができる様にしました。特に退院後は身体状態が変わってしまわれるご利用者が見受けられた為、支援内容の見直しと変更を行いました。
反省点と要因	ご家族に対しての聞き取りが思うように出来なかった為、生活に対する意向について内容が記入しきれませんでした。ご家族が日中、就業されているケースが増えた事で連絡が取りづらくなっているのも要因として考えられます。
次年度課題	ご利用者の要望、希望を自ら訴えることが出来る方が減ってきている中ですが、出来る方については、ご自身の言葉で、出来ない方は施設職員からの聞き取りを目標とし、多職種からの意見も交えた施設サービス計画書を作成致します。
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引続き活動方針を念頭に置き、施設内を回りしたいと思います。ご利用者、介護職員とのかかわりを大切にして参ります。</li> <li>・長期目標、短期目標の見直しは入退院時や身体状態に変化が見受けられた時、看取り契約を新たに結ばれた時など、施設サービス計画書の変更が必要になった場合に支援内容の見直しをおこないます。</li> </ul>

オ 口腔ケア指導

取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科往診時の第2・第4月曜日に歯科衛生士によるご利用者の口腔ケアの個別指導をユニット毎に2名ずつ行いました。</li> <li>・令和5年5月8日より、毎食前に嚥下体操として吹き戻し笛の取り組みを始めました。笛を吹く習慣はつきましたが各ユニットで取り組み方に違いがあるため、統一した関わりを行います。</li> <li>・継続して誤嚥性肺炎の予防や適切な食事形態の提供および口腔ケア実施に努めます。</li> </ul>
--------	--

### 3 委員会報告

#### (1) 安全衛生委員会

開催日	毎月第1月曜日
令和5年度目標	安全な職場の環境づくりの取り組みと職員の健康管理に努めます。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>腰痛予防の為にラジオ体操は継続できている。</li> <li>巡回パトロールを多職種で実施して施設内の環境整備と換気に努めました。</li> <li>定期的に産業医との職員面談はできている。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週日曜日の冷蔵庫内の清掃がきちんとできていなかった。チェック表の確認があいまいだったことが要因なので再確認の必要がある。</li> <li>職員面談は毎月できているが健康面や精神面で課題のある職員の面談はできなかった。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>腰痛予防の取り組みとストレスのない職場づくりに努めます。</li> <li>感染対策を感染症委員会と協力して行います。</li> </ul>
次年度の取り組み	環境整備と働きやすい職場づくりに努めます。

#### (2) 感染症・褥瘡予防委員会

開催回数 出席人数	研修：新型コロナウイルス感染症予防研修、食中毒研修、感染症研修 委員会：年4回 5月、8月、11月、2月
令和5年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症に関わる研修を実施し、職員全体の技術・知識向上に努めます。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の集団発生の抑制を心掛けます。その為に発生時には、初動動作を速やかに行える様、平時より多職種と危機管理に努めます。</li> <li>多職種連携し、褥瘡や皮膚トラブルが発生した際、速やかな対応に努めます。</li> <li>多職種連携し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努めます。</li> <li>感染症対応を全ての職員が、統一された方法で実施出来るよう努めます。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症予防研修を行い、新人職員を含む全職員に対して感染症に関する知識の向上だけでなく、感染症発生時や感染が疑われる場合の速やかな対応と統一された対応方法を行うことが出来ました。</li> <li>多職種を交えてカンファレンスを開催し、ご利用者の状態に合わせ除圧マットやクッションを選定し、褥瘡や皮膚トラブルの予防及び改善に繋がりました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症が5類へ移行になりましたが、新型コロナウイルス感染症への対応及び対策マニュアルが不十分であり、一部フロアにてご利用者及び職員含め、新型コロナウイルス感染症の発生・感染拡大に至ってしまい、ご利用者並びにご家族に多大なる被害及びご心配をお掛けしました。</li> </ul>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症を含む感染症に関わる研修を実施し、職員全体の技術・知識向上を図り、集団発生防止及び統一された対応に努めます。</li> <li>感染対応中、感染症マニュアルによる対応が不十分であると判断された対応については、感染症委員会を筆頭に速やかに多職種連携し、マニュアルの改訂及び対応の改善に努めます。</li> <li>多職種連携し、褥瘡や皮膚トラブルが発生した際、速やかな対応に努めます。</li> </ul>

次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対応マニュアルを随時改訂し、感染症に関わる研修を定期的開催し、全職員に対して周知・徹底に努めます。</li> <li>・褥瘡対策個別計画書を作成し、研修を実施します。</li> </ul>
----------	---

### (3) 人権擁護委員会 (兼身体拘束適正化委員会)

開催日	<p>毎月第2火曜日</p> <p>※4月・7月・10月・1月は、身体拘束適正化委員会を兼ねて開催致しました。</p>
令和5年度目標	<p><b>【事故予防関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服薬事故防止に重点をおき、服薬方法等の検討・再発防止に努めます。</li> <li>・事故予防関連の勉強会、研修に参加し、事例や対応方法等を学び、伝達致します。</li> </ul> <p><b>【人権擁護関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者に尊厳ある支援・ケアに努めます。</li> <li>・職員の人権教育を周知・徹底します。</li> </ul> <p><b>【苦情解決関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者及びご家族、関係団体からの意見や要望を適切に対応し、苦情へ発展しないよう努めます。</li> <li>・苦情解決関連の勉強会やシンポジウム、研修に委員中心で参加し、事例や対応方法を学びます。</li> </ul>
取り組み評価	<p><b>【事故予防関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会や研修には委員を中心に積極的に参加をし、内容を伝達することができました。</li> <li>・毎月の委員会で事故の事例検討を行ったことで、事故の要因、実践的な対応を考え業務に生かすことが出来ました。</li> </ul> <p><b>【人権擁護関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待及び身体拘束防止研修、事故防止研修、人権研修、スピーチロク等の権利擁護に関する研修を行い、メンバー中心に積極的に参加致しました。</li> <li>・ご利用者に対する声掛けや接遇など改善すべきことがまだありますが、研修を実施したことにより各職員の意識の改善を図ることが出来ました。</li> </ul> <p><b>【苦情解決関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は3件事案が発生し（職員対応2件、体調不良時の対応1件）が挙がり、令和6年2月21日に苦情解決第三者委員会を開催し、各委員からの助言を参考とし、今後に向けた対応をしております。</li> </ul>
反省点と要因	<p><b>【事故予防関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服薬事故に関しては、飲み忘れ、誤薬を防ぐことは出来ました。但し、落薬は完全に防ぐことは出来ませんでした。服薬方法の検討、飲み込み確認の徹底がされなかったことが要因であると認識しています。その為、各職員へ知識の伝達、意識の共有を図る必要性があります。</li> <li>・転倒による骨折、原因不明の大きな内出血等の事故が何件か発生してしま</li> </ul>

	<p>いました。未然防止策の検討、綿密なカンファレンスをする必要性があります。</p> <p><b>【人権擁護関連】</b>  日々の声掛け、接遇、スピーチロックにはまだ課題があります。自分本意ではなく、ご利用者やご家族の立場に立ち考えるという事を今年度も引き続き意識するように伝えてまいります。</p> <p><b>【苦情解決関連】</b>  苦情発生から解決に至るまでの時間を要してしまいました。理由として、苦情申し出内容を精査し、書類作成までの期間がスムーズにできていなかったと考えられます。</p>
次年度課題	<p><b>【事故予防関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服薬事故防止に重点におき、服薬方法等の検討・再発防止に努めます。</li> <li>・ 事故予防関連の勉強会やセミナー、研修に委員中心で参加し、事例や対応方法を学びます。</li> <li>・ 事故の防止策とその後の経過と検証をし、再カンファレンスをする事で再発防止に努めます。</li> </ul> <p><b>【人権擁護関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者に尊厳ある支援・ケア実施に努めます。</li> <li>・ 職員の人権教育を周知・徹底致します。</li> </ul> <p><b>【苦情解決関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者及びご家族、関係団体からの意見や要望を適切に対応し、苦情へ発展しないよう努めます。</li> <li>・ 苦情解決関連の勉強会、シンポジウム等の研修に参加し、事例や対応方法を学びます。</li> </ul>
次年度の取り組み	<p><b>【事故予防関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月 1 回委員会開催します。</li> <li>・ 年 2 回事故予防、高齢者虐待及び身体拘束防止研修を開催します。</li> <li>・ 事故予防及びリスクマネジメント・身体拘束関連の外部研修、勉強会の参加と内部伝達研修を開催します。</li> <li>・ 身体拘束適正化委員会を年 4 回開催します。(4 月・7 月・10 月・1 月)</li> </ul> <p><b>【苦情解決関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月 1 回委員会開催します。</li> <li>・ 年 3 回苦情解決委員会を開催します。</li> <li>・ 苦情解決関連の外部研修、勉強会参加と内部伝達研修を開催します。</li> </ul> <p><b>【人権擁護関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月 1 回委員会開催します。</li> <li>・ 年 2 回高齢者虐待及び身体拘束防止研修を開催します。</li> <li>・ 権利擁護関連の外部研修、勉強会参加と内部伝達研修を開催します。</li> </ul>



#### (4) 総務委員会

開催日	4月14日	10月13日
	5月12日	11月10日
	6月9日	12月8日
	7月14日	1月12日
	8月11日	2月9日
	9月8日	3月8日

#### ア 防災

令和5年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度より介護保険制度にて災害時における事業継続計画が盛り込まれ当施設においても過去の経験を振り返り、災害時においてもご利用者へのサービスを出来る限り普段通りに継続出来るように考え努めて参ります。</li> <li>・ 当施設の立地が一級河川に面しているため、急な坂道にも隣接しているため、天気予報等の情報収集に努め、大雨・洪水・大雪等の注意喚起を職員へ回り、大災害発生リスクを軽減し、防災計画や事業継続計画の見直しを図り、全職員に対して周知致します。</li> <li>・ 入職間もない職員も多いので防災訓練（体験型）や防災研修（座学）の場を通じ、普段から各種災害の恐さや災害時の行動と準備の大切さを学びます。</li> </ul>
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大型台風や地震なども少なく、情報収集・伝達に注意して意識や行動を高める事を中心に活動しました。</li> <li>・ 火災報知器の誤作動により、夜間の職員が中心となり、全館への声かけやご利用者の健康状態やけがの有無等の確認及びライフラインの確認を実施して上司へ速やかに報告する等、緊急時の行動及び連絡の発信を職員自らの判断で行う経験を積むことが出来ました。</li> </ul>
反省点と要因	<p>研修の実施やマニュアルなどの整備はしていましたが、予期しない事態が起こったことにより、対応に苦慮しました。誤報ではありましたが、火災報知器発報の対応を行うことにより、非常時に備えての職員の意識が確実に育ってきています。勤務している職員が、より積極性をもって、事態に対応できるよう連絡体制を整備します。マニュアルの作成、見直しをはかり、危機管理への意識を高めます。</p>
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険制度にて災害時における事業継続計画が盛り込まれ当施設においても過去の経験を振り返り、風水害、地震などの災害においてもご利用者へのサービスを継続出来るように考え努めて参ります。</li> <li>・ 当施設の立地が一級河川に近く、情報収集に努め、大雨・洪水・大雪等の注意喚起を職員へ回り、大災害発生リスクを軽減し、防災計画や事業継続計画の見直しを図り、全職員に対して周知致します。</li> <li>・ 防災訓練（体験型）や防災研修（座学）の場を通じ、普段から各種の災害の恐さや災害時の行動と準備の大切さを職員へ伝達共有いたします。</li> </ul>
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害発生及び予想される場合には、初期対応を速やかに準備し、管理者の指示のもとに行動を行います。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策に留意しながら計画的な防災訓練の実施に努めます。</li> <li>・ 緊急時は、管理者及び管理職の指示の下、事業継続計画に基づき実施します。</li> </ul>
--	---

## イ 物品

令和5年度目標	毎月末に棚卸しを確実に実施し、消耗品等の不足品が生じないように管理するとともに、保管場所の衛生保全に努めます。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消耗品等の管理を意識し、あらゆる物品の適正な利用方法を検討してまいりましたが、有効な対策までは行き届きませんでした。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症対策を継続し、衛生関連品の確保が適正におこなえました。感染対応となっても、物品が不足することなく、安定供給することができました。</li> </ul>
反省点と要因	委員会として、具体的な取り組みを打ち出すことができず、効果的な節約には至りませんでした。次年度からは、手順書などを準備し、全職員が共通意識をもって対応に当たります。
次年度課題	毎月末に棚卸しを確実に実施し、適正数量を把握し、消耗品等の不足品が生じないように管理するとともに、保管場所の衛生保全に努めます。
次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月末に棚卸し、年末と年度末は全ユニットの棚卸を行います。</li> <li>・ 市場の情報を収集し、衛生用品や消耗品が不足とならないように取り組んでまいります。同時に災害時に必要となる衛生用品や消耗品の備蓄も再確認し備えてまいります。</li> <li>・ 物価高騰に伴い、衛生用品・消耗品の価格調査に取り組み、より良質なものを価格交渉し、継続的に仕入れられるよう努めます。</li> <li>・ 適切な使用方法の指導を行い、無駄遣いとならないよう大切に保管・節約しつつ使用します。</li> <li>・ 光熱費・水道・ガスについても節約する意識を強く持ち、点検・巡回を行い、使用方法の見直しなど徹底してまいります。</li> </ul>

## (5) 行事企画担当

令和5年度目標	庭園の散歩など、日頃から行える外気浴の機会を設け、ご利用者に季節感を感じていただけるよう努めます。
取り組み評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症対策下の中、「バザー」「敬老会」は、社会情勢を考え、残念ながら中止となりました。</li> <li>・ 「夏祭り」は、感染症対策の観点から、外部の参加を見合わせ、「秋祭り」として、小規模ながら、ユニット毎の独自の企画にて、季節を感じて頂けるような行事を行いました。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多職種と連携をとり、感染拡大に注意しながら、ユニット毎の企画が行えたことは次年度以降も活かせると考えます。社会情勢の変化に対応し、臨機応変に対応していけるよう準備を行う必要があります。</li> <li>・ 感染症予防の意識を高く持つことにより、施設全体の行事だけではなく、ご利用者のご要望にあわせた企画など個別性を重視した企画を検討します。</li> </ul>
次年度課題	年間行事を計画し、ご利用者に四季を感じていただけるような行事を企画し

	<p>ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な感染症対策と社会情勢を踏まえたうえで、その時の情勢に合わせた対応を致します。</li> </ul>
次年度の取り組み	職員全員が行事担当を担い、ご利用者に季節感を感じて頂けるよう努めます。

#### 行事実施状況

5月5日～8日	菖蒲湯
7月7日	七夕
9月	秋祭り（感染症対策のため、フロア毎の開催）
10月	バザー（新型コロナウイルス感染症予防のため、中止）
11月15日	お寿司屋
12月21日～23日	ゆず湯
12月27日	お餅つき
1月1日～3日	新年挨拶（お屠蘇）
2月3日	節分
3月3日	ひな祭り

#### 令和5年度研修実績

令和5年度目標	<p><b>【教育担当】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新入職の職員は経験・未経験問わず、研修及び定期的な評価を行い、個の能力を高めるとともに、基礎力のスキルアップを目指します。</li> <li>各々の職員能力等を加味し、それぞれの階層別にあった研修を行い、自身の不得手なものをなくし、次の目標を示し、スキルアップを目指します。</li> </ul> <p><b>【研修担当】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門的に外部の研修に参加する選抜チーム（介護技術、接遇・マナー、知識・認知症等）を作り、部門に特化し、内部研修を行い、職員のスキルアップを図ります。</li> <li>階層別研修として、外部研修・内部研修を計画し、職員に必要な知識・技術の伝達を行います。「介護技術」「認知症の知識」「接遇・マナー」に重点を置き、勉強会を定期的に行い、職員の知識・技術の向上を図ります。</li> <li>リスクマネジメント研修及び感染症予防研修を継続・実施致します。</li> <li>動画配信研修やレポート研修等を導入し、学びの機会を提供します。</li> </ul>
取り組み評価	<p><b>【教育担当】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新入職の職員は経験・未経験問わず、研修を行うことは出来ました。しかし、定期的な評価を行うことには至らず、振り返り研修など計画的に行えず、不十分なものとなってしまいました。</li> <li>基礎的な技術などは、多職種との連携等により、必要な職員へ働きかけ、個の能力を伸ばし、基礎力のスキルアップを行えました。</li> <li>職員の能力などを加味し、階層別にそれぞれにあった研修が行われず、職員のスキルアップや意識覚醒には不十分なものになってしまいました。</li> </ul> <p><b>【研修担当】</b></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研修については、上半期は積極的に職員に参加を促すことができました。下半期については、各研修期間の研修予定など把握できず、参加の機会を逃すこととなってしまい、職員へのスキルアップの機会を提供することができませんでした。</li> <li>伝達研修が行われず、職員に伝えることができませんでした。そのため、他の職員の学ぶ機会を作り出すことができませんでした。</li> </ul>
反省点と要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>新人研修、内部研修は多職種連携のもと、実行することが出来ましたが、各フロア内での伝達研修の機会を設けられず、広く職員への知識の共有を図る必要性があります。</li> <li>年間の研修予定の把握が出来ておらず、研修計画が不十分なものでした。</li> <li>喀痰吸引等基本研修免除研修への参加を予定していましたが、基本的なガイドラインを理解できず、参加の機会を逃してしまいました。</li> </ul>

### 【内部研修】

研修種別	内容	人数
新人職員研修 令和5年5月1日～5日 令和5年10月1日～5日 令和5年11月1日～5日 令和5年12月1日～5日 講師：小泉施設長、各主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴時のご利用者対応</li> <li>移乗時の注意事項</li> <li>事故の報告・連絡・相談</li> </ul>	5名
新型コロナウイルス感染症研修 令和5年4月13日 講師：古橋リーダー、中川介護士 感染症・褥瘡予防委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の基礎知識</li> <li>ガウンテクニック</li> </ul>	14名
食中毒研修 令和5年5月11日 講師：辰巳管理栄養士 感染症・褥瘡予防委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>食中毒概論・各論および対策</li> </ul>	17名
「看取り」研修 令和5年5月25日 講師：塩谷看護師	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均寿命</li> <li>終末期を迎える人にすべきこと</li> </ul>	14名
褥瘡予防研修 令和5年6月8日 講師：秋本機能訓練指導員、尾方看護師 感染症・褥瘡予防委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験してみよう「座ったまま」</li> <li>体位交換、良肢位</li> </ul>	19名
高齢者虐待・身体拘束防止研修 令和5年6月14日、22日 講師：人見相談主任・土屋ケアマネージャー 人権擁護委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者虐待・身体拘束防止等権利擁護に関連する法令</li> <li>身体拘束の背景・現状・取り組み</li> <li>高齢者虐待の要因等</li> <li>自己点検シートの実施</li> </ul>	47名
事故予防研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故の原因とは</li> </ul>	11名

令和5年7月27日 講師：山本介護主任、大内看護師 人権擁護委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析方法について</li> <li>・なぜなぜ分析</li> </ul>	
防災研修 令和5年8月10日 講師：山本介護主任、中村リーダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害災害への備えと実例</li> </ul>	6名
摂食嚥下回診・口腔ケア研修 令和5年9月13日 講師：昭和大学歯学部 弘中教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の摂食嚥下回診</li> <li>いまさら聞けない摂食嚥下の基礎知識</li> </ul>	31名
「介護と接遇」研修 令和5年10月13日 講師：本多勇氏（武蔵野大学社会福祉専攻教授）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇とは</li> <li>・高齢者介護領域の「接遇」</li> <li>・専門職としての「自己理解」</li> <li>・「接遇」のポイント</li> </ul>	23名
感染症対策研修 令和5年10月26日 講師：今村介護士、西尾介護士 感染症・褥瘡予防委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策の基礎知識</li> <li>・嘔吐物処理方法について</li> </ul>	15名
事故予防（新人）研修 令和6年1月24日 講師：山本介護主任 人権擁護委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故予防ガイドラインについて</li> </ul>	5名
「服薬」研修 令和6年1月25日 講師：松尾看護師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニット毎の服薬方法について</li> <li>・服薬確認</li> </ul>	10名
「医務不在時の緊急時対応」研修 令和6年2月24日 講師：小泉看護師・山本介護主任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンコール基準について</li> <li>・考えられる初期症状の対応</li> <li>・心肺蘇生法実演</li> </ul>	17名
「不適切なケア」研修 令和6年2月9日 講師：本多勇氏（武蔵野大学社会福祉専攻教授）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「不適切なケア」とは</li> <li>・ケアの本質・ポイント</li> <li>・対人援助職の自己理解</li> </ul>	21名
摂食嚥下回診・口腔ケア研修 令和6年3月6日 講師：昭和大学歯学部 弘中教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の摂食嚥下回診</li> <li>・いまさら聞けない摂食嚥下の基礎知識</li> </ul>	38名
高齢者虐待・身体拘束防止研修 令和6年3月26日 講師：土屋フロアリーダー 人権擁護委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画配信型とし、レポート提出とする</li> <li>・高齢者虐待・身体拘束防止等権利擁護に関連する法令</li> <li>・身体拘束の背景・現状・取り組み</li> <li>・高齢者虐待の要因等</li> <li>・自己点検シートの実施</li> </ul>	17名

【外部研修】

研修種別	内容	参加者
------	----	-----

類型変更後の高齢者施設の感染症対策等に関する説明会 令和5年5月26日 主催：神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5類移行に伴う各種の変更について</li> <li>・高齢福祉課からの情報提供</li> <li>・施設における感染対策について</li> </ul>	片桐 人見 山本
モルテンオンラインセミナー 令和5年5月30日 令和5年6月16日 主催：株式会社モルテン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド上でのポジショニングケア実践</li> <li>・車椅子上で姿勢崩れ対策</li> </ul>	秋本 尾方 甘利 鈴木慶
救命講習会 令和5年6月29日 令和5年11月21日 主催：大和市消防本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通救命講習会</li> </ul>	藤田 澁谷 佐藤克 長谷川
医療・介護業界人材採用セミナー 令和5年6月15日 主催：横浜銀行・浜銀総合研究所	人材不足の深刻化が進む医療・介護分野において人的経営課題、海外人材採用と定着について	山本
老人福祉施設協議会神奈川大会 令和5年7月5日 主催：神奈川県老人福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設発表会見学</li> </ul>	小泉 広瀬
アンガーマネジメント講習 令和5年7月19日 主催：神奈川県社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉現場の援助食に求められる感情マネジメント</li> <li>・怒りの基礎理論</li> <li>・アンガーマネジメントの基礎理論</li> <li>・対処法としてのアンガーマネジメント</li> <li>・援助者の援助として現場で伝える、現場で活かす</li> </ul>	広瀬
認知症介護の基本研修 令和5年7月12日、8月9日 主催：西部総合職業技術校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な身体の使い方</li> <li>・認知症の基本知識</li> </ul>	大平 池上
ユニットリーダー研修 令和5年7月26日、7月27日 主催：全国個室ユニット型施設推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームケアの基礎</li> <li>・ユニット内におけるリーダーシップ</li> <li>・介護場面における課題と解決方法</li> <li>・基本的な介護技術</li> </ul>	甘利
社会福祉基礎研修 令和5年8月9日 主催：神奈川県社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者の尊厳を守り、支援するための「価値」と「倫理」について</li> </ul>	澁谷
「記録の書き方」研修 令和5年8月25日 主催：かながわ福祉サービス振興会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護記録の目的と理解</li> </ul>	鈴木慶
キャリアパス構築・運用研修 令和5年9月7日、9月25日 主催：神奈川県社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパス制度の運用と課題の確認</li> </ul>	山本

スーパーバイザー研修 令和5年9月15日12月19日 5日間 主催：神奈川県社会福祉協議会	・スーパービジョンの考え方や方法・技術を学び、現場での実践を目指す	山本
高度障害者の生活支援に関する調査」 の研究報告会 令和5年度10月21日 主催：神奈川県介護福祉士会	・高齢障害者の障害施設からの受け入れとその問題・課題	小泉
四市合同研修会 オンラインライブ研修 令和5年11月18日 主催：県央東部4市地区高齢者施設 連絡協議会	・コロナ禍で低下した介護モラルと接遇 ・家族との接し方	小泉

#### イ ボランティア活動

令和5年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症対策禍の社会情勢を踏まえ、地域の社会福祉協議会や自治会との連携を図ります。</li> <li>・ ボランティアコーディネーター研修に参加し、専門職員を育成します</li> </ul>
取り組み評価	感染症対策の中、積極的な働きかけはできませんでした。
反省点と要因	昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症予防のため、社会情勢を鑑みながら対応致しました。ご家族の面会などを規制している状況のもと、積極的な受け入れの体制を構築するには至りませんでした。
次年度課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症等の社会情勢を見極め、地域住民やボランティア受入を検討・連携をとり、可能な範囲でボランティアとご利用者との交流の場を設けます。</li> <li>・ ボランティアセンター等のインフォーマルサービスの利用及び紹介等による募集を行います。</li> <li>・ 令和6年度より大和市ボランティア連合会との連携を実施いたします。</li> </ul>
ボランティア実績	感染症予防対策により、受け入れ実績はありません。

#### ウ 外部機関との関わり

取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症対策を踏まえつつ、外部機関との関わりとして、一年を通しては、積極的な活動は行えませんでした。</li> <li>・ 次年度を見据え、障害自立支援センターと協議を始め、清掃などの再開への検討を致しました。</li> </ul>
------	--

## 4 職員関係

(1) 職種別配置構成\*総務課 非常勤 管理職者、清掃を含む。

令和6年3月31日現在

区 分		常 勤	非 常 勤	計
施 設 長		1	0	1
総 務 課 (宿直・営繕も含む)		2	10	12
介 護 (清掃も含む)		35	43	78
医 務	看護師等	6	1	7
	嘱託医師 (内科)		2	2

	嘱託医師（歯科）		1	1
	嘱託医師（精神科）		1	1
栄 養	管理栄養士	1	0	1
相 談	介護支援専門員	1	0	1
	機能訓練指導員	1	0	2
	生活相談員	2	0	2

## (2) 資格取得構成

令和6年3月31日現在

区 分	常 勤		非 常 勤	
	男性	女性	男性	女性
介護福祉士	17	4	7	8
初任者資格	5	1	0	4
実務者研修資格	2	2	0	0
医師及び歯科医師	0	0	3	1
看護師	0	4	0	1
准看護師	0	2	0	0
社会福祉士	1	0	0	0
社会福祉主事任用資格				
介護支援専門員	3	0	1	2
管理栄養士	0	1	0	0
柔道整復師	2	0	0	0

## (3) 実習・見学・講師派遣関係

<見学>

\*以下の団体に職員を講師として派遣いたしました。

依頼団体	派遣月日	内容及び会場	派遣者名
学校法人柏木学園	4月3日	初任者資格（実践教育センター）	小泉
学校法人柏木学園	4月18日	初任者資格（実践教育センター）	小泉
学校法人柏木学園	4月19日	初任者資格（実践教育センター）	小泉
学校法人柏木学園	4月27日	初任者研修（実践教育センター）	人見
学校法人柏木学園	5月18日	初任者資格（実践教育センター）	小泉
第三者評価推進機構	7月1日	評価調査者認定研修（社会福祉センター）	小泉
第三者評価推進機構	7月3日	評価調査者更新研修（社会福祉センター）	小泉
学校法人柏木学園	7月28日	初任者資格（実践教育センター）	小泉
学校法人柏木学園	8月10日	初任者資格（実践教育センター）	人見
神奈川高齢協	8月29日	新任職員等研修会（藤沢ミナパーク）	小泉
第三者評価推進機構	9月27日	評価調査者更新研修（社会福祉センター）	小泉
学校法人柏木学園	9月29日	初任者資格（実践教育センター）	小泉
学校法人柏木学園	11月14日	大和商業高等専修学校	小泉



学校法人柏木学園	11月29日	初任者資格（実践教育センター）	小泉
学校法人柏木学園	1月25日	初任者資格（実践教育センター）	山本
学校法人柏木学園	2月6日	初任者資格（実践教育センター）	小泉
学校法人柏木学園	2月8日	初任者資格（実践教育センター）	人見
学校法人柏木学園	2月15日	初任者資格（実践教育センター）	小泉
学校法人柏木学園	3月7日	初任者資格（実践教育センター）	人見

<地域連携>

福祉の魅力を伝える プロジェクト	5月1日～ 3月31日	大和市社会福祉協議会	大平
車椅子体験教室	1月24日	大和市社会福祉協議会（大和東小学校）	山本幸 大平・広瀬
障がい者施設利用者相談	月2回	e ネットオンブズパーソン	小泉
神奈川県求職者支援訓練	4月～3月	柏木実業実践教育センター	小泉・ 人見・山本

<実習> \*以下の機関の実習を受け入れました。

教員免許資格取得		
教育機関	実施時期	内容
柏木学園	11月14日～11月15日	初任者実習9名
柏木学園	1月16日～1月17日	初任者実習16名
國學院大学	8月21日～8月25日	介護等体験
日本大学	9月18日～9月22日	介護等体験
國學院大学	9月18日～9月22日	介護等体験
日本大学	10月2日～10月6日	介護等体験
東京藝術大学	10月2日～10月6日	介護等体験
相模女子大学	10月16日～10月20日	介護等体験
相模女子大学	10月23日～10月27日	介護等体験
横浜市立大学	2月5日～2月9日	介護等体験

以上